

機工
支店
仙台
木村

東北6県に密着 空気環境改善に対応

工場空調から新分野へ提案領域拡大



佐竹 正弘 支店長

発案件や大型案件の計画が動きを見せており、将来に向けた仕込みにも力を注ぐ一年になりそうだ」と話す。

東北は広域市場であり、地域によって気候や設備ニーズも異なる。特に北東北と南東北では冬季環境の違いが大きく、暖房需要や設備計画の考え方も変わるといふ。同支店ではそうした地域特性を踏まえながら、それぞれの顧客に最適な提案を行っている。

主力分野は工場・産業空調だ。食品工場や製造工場を中心に、暑熱対策や省エネ、作業環境改善への関心が高まっている。改正労働安全衛生規則の施行なども追い風となり、空調設備による職場環境改善への相談が増加しているという。

そうしたニーズを背景に、外気処理関連製品への引き合いも堅調に推移している。「空冷HP式

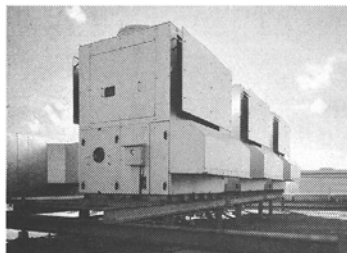
策したものの十分な効果が得られず、さらに改善を求めるお客様もいる。後者のお客様ではより高度な快適性や管理性を求めるケースも増えており、当社ならではの提案力が発揮される場面も少なくない」と話す。

また近年は既設設備の改修需要も増加している。施設の維持管理負担軽減や更新時期の到来を背景に、空調設備全体の見直しを検討するケースも増えている。同支店では設備更新に合わせた省エネ提案や運用改善提案にも力を入れている。傾

向としては、冷温水発生機を活用した既設空調設備を空冷式の空調システムへ更新する案件が多いという。特に、熱源を二体化した空冷HP式外調機や空冷直膨式の空調機は熱源システムをシンプルにでき、維持管理負担の軽減につながる。ことから、設計事務所や施設管理者からも評価を得ている。

一方、同社が中長期的に普及を進める「自然派ハイクレイド(HG)空調」の提案も強化している。水やヒートポンプ、熱回収技術などを活用しながら快適性と省エネ性の両立を目指す木村工機独自の空調思想だ。仙台支店でも実際の空調空間を体感してもらうことを重視している。大阪・八尾製作所や東京営業本部のショールームへ顧客を案内するほか、納入事例見学なども通じて自然派HG空調の価値を訴求している。「省エネだけでなく快適性も大きな価値になる。実際に体感していただく、空気質の違いをご理解いただけたことが多い(同)」と語る。さらに新たな取り組みとして農畜産分野にも注

食品工場に納入された
ルーフトップ外調機



立形ルーフトップ外調機や空冷HP式ツインサイクル形外調機、空冷直膨式高性能エアハンは当支店の柱となる製品(同)とする。工場用陽圧換気空調システムを構成する工場用陽圧外調機や工場用ソ

業務用・産業用空調システムメーカーの木村工機(社長＝木村晃氏、本社・大阪市中央区上本町西5-3-15)の仙台支店(支店長＝佐竹正弘氏、所在地＝仙台市青葉区中央3-2-1)は、東北6県をカバーする営業拠点として、地域特性に応じた空調提案を進めている。工場・産業空調を主力としながら、暑熱対策や省エネ、快適性向上へのニーズに対応。自然派ハイクレイド(HG)空調や農畜産分野など新たな市場開拓にも力を入れている。

足元の市場環境について佐竹正弘支店長は「昨年は比較的物件の動きが活発だった。今年は再開